

## 名古屋 YWCA グローバルスクール見学記

---

### ■ はじめに

新型コロナの影響で中断していた日本語教室訪問を再開しました。令和元年（2019年）11月以来、実に2年ぶりの教室訪問です。

この2年の間にコロナの感染拡大で対面授業を取りやめ、Zoom などによるオンライン化に踏み切った教室はかなりの数に上っています。

### ■ 今回訪問先に選んだのは…名古屋 YWCA グローバルスクール

名古屋 YWCA グローバルスクールも緊急事態宣言下で休講を余儀なくされていた教室のひとつです。宣言の解除とともに対面のレッスンを再開されましたが、学習者のニーズに合わせてオンライン方式も継続して採用しているそうです。コロナの時代に相応しい日本語教室のモデルといえるかもしれません。

### ■ 名古屋 YWCA グローバルスクールって…こんなところ！

- ◇場 所 名古屋市中区新栄町2丁目3番地
- ◇参加費 1回400円（コロナ感染拡大の影響で今年度は無料）
- ◇学習者 フィリピン、中国、パキスタン、ネパール、アフガン、ウクライナ、コロンビアなど
- ◇学 期 4-7月、9-12月、1-3月の3学期制。途中参加も可能で、1回見学後、空きがあれば入れます。

### ■ クラスの特色は…

子ども向けの日本語クラスとパパやママを対象にしたファミリークラスのふたつの教室があります。今回見学させていただいたのは、子ども向けのクラスです。子ども向けのクラスは、小学校高学年から高校生までが対象で、学習目標別に7つのクラスに細分化されています。

すべてのクラスが週1回開講され、日本語のレッスンのほかに算数（数学）や理科、社会、英語など、児童・生徒が苦手な教科をサポートしているのが特徴です。

## ■ 子ども向けの日本語クラスについて

以下の7つのクラスがあります。

- 1 小中学生クラス（対面） 木曜日 16:00～18:00  
小学校高学年から中学生までが日本語と教科の日本語を学びます。
- 2 高校準備クラス（対面） 火曜日 13:30～15:30  
高校進学希望の過年度生と学齢超過生が進学のための日本語を学びます。
- 3 高校生昼間クラス（対面） 火曜日 13:30～15:30  
夜間定時制高校に通う生徒が日本語と教科の日本語を学びます。
- 4 高校生夜間クラス（対面） 木曜日 16:00～20:00  
全日制と昼間定時制高校に通う生徒が日本語と教科の日本語を学びます。
- 5 教科（応用）クラス（対面） 火曜日 16:00～17:30  
高校進学希望者が対象で、中学3年間の数学を学びます。
- 6 教科（基礎）クラス（オンライン） 土曜日 15:00～16:00  
教科（応用）クラスの前段階の学習者が数学の基礎を学びます。
- 7 進学サポートクラス（オンライン） 土曜日 13:30～14:30  
高校進学希望者が日本語の基礎を学びます。

## ■ 先生はどんな人たち？

A：学生から中高年まで年齢、性別、職歴も様々な人たちで構成されています。

YWCA グローバルスクールのOBで、今は大学生のボランティアの場合、同じ出身国の子どもたちに母語でコミュニケーションがとれるため、とても心強い存在です。

高校生にかなり高度な数学を教えているボランティアの方はサラリーマン時代エンジニアだったとのことで、高校の微積分ぐらいならわけないそうです。

また、YWCA では日本語教師養成講座を開催しているため、ボランティアには事欠かないそうです。ほとんどのボランティアが講座の修了生だそうです。

## ■ 先生は何人くらいいるの？

子ども日本語クラスが約40人、ファミリークラスが約10人です。

（ファミリークラスは、金曜日の10:00～12:00に開催されるママとパパのための日本語クラスで、「生活の日本語」、「仕事の日本語」、「学校の日本語」を教えています。対面式で託児もありますが、コロナ禍の現在は、すべてオンラインで行っているそうです。

今回の教室訪問記は二部構成になっています。

前編（第一部）では、毎週土曜日に開講している高校進学希望の子どもたちを対象にしたオンライン教室の様子をレポートします。

後編（第二部）では、毎週木曜日開講の小中学生対象のクラスと高校生対象のクラスのふたつの授業の様子をレポートします。

## 前編（第一部）～オンライン編～

---

### ■ オンライン授業を受けている学習者数は？

通常の対面クラスはサポートしている内容が、学校の宿題や学期ごとの試験や進学のための受験対策など個々に違うので、オンラインへの移行がなかなか難しく、できることから始めています。今年度のオンラインクラスは対面クラスに参加している生徒を対象にしています。

### ■ オンライン授業の内容は？

オンラインで実施している進学サポートクラスでは、「いっぽ にほんご さんぽ」を使って基礎日本語を教えています。

教科（基礎）クラスでは、ボランティアの先生が作った独自のシラバスの教科書で数学の基礎を教えています。

### ■ オンラインで使用するソフトウェアと機材は？

ソフトウェアは Zoom を使用しています。ホストの機器は YWCA のものを使用しています。

日本赤十字社からタブレットを 10 台寄贈していただき、生徒にはタブレットの貸し出しをしています。

### ■ 進学サポートクラスを見学させていただきました。

当日（11月27日）の参加者は、先生1名と学習者4名（パキスタン、タイ）それに先生になる予定の見学者1名でした。

使用教材はパワーポイント版の「いっぽ にほんご さんぽ」でした。

「でんきをつけます。」 「あかるくなります。」 → 「でんきをつけるとあかるくなります。」

パワーポイントのスライドを使って、テンポよく授業が進みます。ただ、この日はカメラの調子が悪く、先生の顔が見えなかったのが残念でした。

カメラの調子にかかわらず、多くの学習者もなかなか顔を見せてくれないそうです。声を聴くだけでなく、表情などの反応もみられるといいのですが…。初期日本語の教室では、教材、教案がしっかりしていれば、Zoom などを用いたオンラインでも十分授業ができると感じました。

### ■ 先生に質問させていただきました。

Q：オンラインで教えることの難しさや苦勞する点は？

A：通常、対面式での初期日本語教室では、カードや絵カードを使って、繰り返し、繰り返し何度も学習者に発話させて授業をすすめていきますが、オンラインではそれが難しいです。

Q：オンラインのよい点は？

A：見学当日、パキスタン人学習者は、一時帰国をされており、日本からでなくパキスタン本国から参加していました。

## 後編（第二部） ～対面編～

---

「対面のレッスンには、オンラインにないぬくもりを感じる」

そんな気持ちで、対面レッスンの再開を心待ちにしていた学習者も少なくなかったと思います。

見学当日（11月18日）の出席者は、小中学生のクラスが20人、高校生のクラスは10人ぐらいでした。アクリル板が設置されたテーブルに着席し、ほぼマンツーマン形式でレッスンを受けます。

「テーブルをぐるりと巡ってみると、小中学生は算数や理科、中高生は数学や英語の勉強をしている子どもが目立ちました。」

中には『いっぽ にほんご さんぽ』や『みんなの日本語』などのテキストを

使って日本語の基礎を学んでいる子もいました。》

Q：コロナ対策にはどのような点に注意していますか？

A：対面のクラスは、緊急事態宣言の間は休講でオンラインはやっていませんでした。

アクリル板をはさんでのマンツーマン形式をとっているのは、コロナ対策の意味もあります。小中学生のクラスの定員は 30 人で、2019 年度は定員一杯受け入れていましたが、現在はボランティアの人数とのバランスを見て受け入れています。

Q：学校の延長ではなく、塾ともどこか違う…

A：クラスにひとりずつ置いているコーディネーターを中心に、その日に勉強したいことを児童生徒から聞いた上で、ボランティアが個別指導しています。日本語そのものよりも、学校の授業についていけないところがあれば、そのギャップを埋めることを重視しています。



《中には、勉強ではなく、カードゲームをしたり、友だち同士でおしゃべりに花を咲かせたりしている子どもたちもいて、ここが、「教室」としてだけでなく、「居場所」としての役割も果たしていると感じました。》

Q：対面教室のボランティアの先生は？

この日は、現役の女子大学生が 2 名、中学生の理科をみていました。そのときどきの子どもたちの要望によって、数学でも英語でも何でもみます（頼もしい限りですね！）。

Q：JLPT（日本語能力試験）対策は？

A：やっています。大学受験を控えた高校生の場合、JLPT の N1 をとっている

と有利ですから。やるように勧めています。

Q：運営面の課題・悩みは？

A：教室運営にかかる経費負担が大変です。というのも1回400円の受講料は、コロナ下の現在、無料にしているためです。ボランティアの人数も十分ではなく、手薄になっている面もあります。

### ■ 対面クラスの見学を終えての感想・印象に残ったことなど

- ◆ フィリピンから来日して1年という中3の男の子は、アニメーターになるのが夢。小さなノートにアニメを描きためていた。
- ◆ ネパールから来日して3年になる中2の女の子は、発音も文法もほぼ完璧な日本語を話す。得意科目は英語。ネパールでは基本的に授業は英語で行われる（日本人はとてもかなわない）。
- ◆ ウクライナ出身の男子高校生は将来IT関連に進みたいと話し、ITパスポート（情報処理技術試験）の教科書を勉強していた。
- ◆ アフガン出身の男子高校生は大学進学を目指して勉強中。「母国には帰りたくない」と聞いて胸が痛んだ。
- ◆ コロンビア出身の中2の男の子は、教室の時間待ちの高校生とカードゲームをしていました。携帯電話をいじりながら、日本の若ものの言葉で話す彼ですが、ここは大切な居場所になっていると感じました。
- ◆ 高校生たちの書いたノートなどを見たところ、中国語圏以外の出身者にとって、漢字の壁がとても厚いことがわかりました。



- ◆ 来春から大学への入学が決まっている高校生も数人いましたが、変わらずこの教室に通ってきている姿が印象的でした。

- ◆ 外国出身の子どもたちが日本社会に馴染むためにも、子どもたちを見守るこのような教室が、各地域にあるのが理想だと思いました。
- ◆ しかし、日本の学校の外国人生徒への対応の補填を、こうしたボランティア教室だけでカバーするのはとても難しいと感じました。

■ 最後に名古屋 YWCA グローバルスクールが目指すものを伺いました。

「外国をルーツに持つ子どもたちとその家族が日本社会で自己実現をし、それぞれの道を進んでいくことが何よりも大切であると考え、日本語支援だけでなく、教室に通う子どもたちの居場所となれるような活動を続けていきたい。」

【参考情報】この HP 内に「オンライン授業の実施状況に関するアンケート」の調査結果を掲載しています。是非ご覧ください。